The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	シナブロ（知らぬ間に少しずつ）
Author(s)	金, 宝恩
Citation	デザイン理論. 2017, 69, p. 80-81
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/65030
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

シナブロ（知らぬ間に少しずつ）

金　宝恩／京都工芸繊維大学院

１．研究背景

韓国の伝統を伝えるタイポグラフィ本を制作した。近年，韓国は急速な経済成長を経験し，伝統に対する意識が薄れてきている。実際に，今回の制作で参考とした韓国の伝統絵画「民画」は，歴史的絵画を全て包括するなど，体系的な整理が未だなされていない。

そこで，教育本による伝統意識の改善を提案する。この本では，民画の一手法である文字画を用いて，アルファベットを学習しながら韓国の伝統や文化について学ぶことができる。また，教育本としても発音と文字構成をビジュアルで分かるよう工夫した。色に関しては，韓国の民画から色の抽出を行ったものを使用した。読者に本全体から韓国の伝統・文化について意識してもらいたい。

２．研究目的

この本は韓国の文化，伝統の大切さを伝えるためのものである。まず，韓国の伝統に関する認識を改善するに当たって，タイポグラフィの性質として言語でありながら，非言語的な要素も表現することができることから，幼児教育の教材としても使用できるように子供達を対象にして制作した。と同時に伝統に関する認識が足りない大人と外国人なども想定して制作した。なぜ，幼児教育なのかについては，外国人に向けた広報に力を入れても，自国民が伝統について興味を持たないと意味がない。よって，幼少期から伝統に触れる機会が必要であると考え，子供の教育について考えてみた。

３．アルファベットを通じた教育の提案

国際共通語である英語を入口として，認知度の低い韓国の伝統を知ることができる足がかりにする。それは韓国の子供の教育資料としてはもちろん，伝統的に関心の薄い大人，そして外国人にも分かるなど汎用性の高いものになっている。例えば，単純に韓国でハングルの文字画を制作するのではなく，アルファベットを用いることで，英語と伝統・文化について同時に学ぶことができ，幼児教育資料としては実際に活用できると思われる。また，ハングルを知らない人にも読み取ることができるよう，韓国の伝統色を使用して，子音と母音のパッチム，３種類に分類しているため，韓国語の教材としても使用できる。現在，出版されている韓国語に関する参考書のほとんどが英語による発音表示である。そこで，実際にハングルを学んでいる人に読んでもらうと，分かりやすい色分けであるとの意見がみられるなど，語学教育の分野に関しても新しい試みである。

４．本（制作物）の構成

ハングルの構成を説明した後，a–z の順番で記載している。左側のページは，ハングルの発音をアルファベットで表記して，その下にハングルを記し，初学者においては，英語の発音が記載されていて親しみが持てるように制作した。また，慣れた人には色分けによるパッチムの構成や母音と子音の組み合わせを意識できるようになっている。文字画の説明は右側のページ下に書かれている。背景の色は文字の雰囲気が分かるような民画の色を

選択し，全体的に韓国の伝統色が伝わるようになっている。

4-1　テクスチャの使用に関する考察

民画は，主に紙や絹に描かれてきたので，その質感を表現するために様々な紙に描いてみる実験を行った。そこでは，東洋画の塗料を使用して，より民画に近い色を表現した。

4-2　伝統模様に関する考察

韓国での伝統模様の特徴は，一般庶民の日常生活における美意識を反映していると言われている。つまり，日常的な審美的行為の産物である。造形美術，建築芸術，食文化，生活道具に対する一般庶民の美意識の結果，必要性のあるものとして模様が存在するため，その制作意図や目的などの観点から，純粋な鑑賞用美術などとは異なる性質を持つと言えるだろう。

4-3　実用性に関する考察

ハングルを単なる文字ではなく，意味を持った文字画として制作した。そのため，文字としての情報伝達機能は多少低下することがあるので制作した文字画の題材の頭文字と文字の頭文字は一致するようにデザインを考えた。写真と文字の組み合わせではなく，文字画のみによって説明したい題材をグラフィック的に表現できている。

5．ま と め

本研究を進める中で，伝統と今の私達の生活の密接な関係について再確認できた。文化と伝統は現在私達が生きているように，移ろいゆくものであり，現在も変化し続けている。そして，伝統は，著名な学術者や芸術家の活用や保存活動によってのみ解釈されるものではなく，韓国民として韓国の伝統を皆で認識し，守らなければならない。そのためには，韓国の伝統に関する研究が必要であった。そのために私は今回３つの研究を行った。１つ目として，韓国の伝統色について研究した。韓国の伝統色は日本と比べるとまだ研究自体もあまり進んでおらず，体系化された論文や本もあまり見つからなかった。私の伝統色に関する研究としては韓国の民画から色を抽出し，体系化することである。２つ目は，民画の表現について研究を行った。民画は多くの人が描いてきたものであり，それぞれに独特の表現があった。その表現をいかして，現代の塗料における実験を行い，本作品に使用した。なので，本作品は現代的でありながらテクスチャは民画風になっている。３つ目は，韓国の伝統模様に関する研究を行った。韓国模様も伝統色と同じく，整理されている資料が少なかった。そこで，個々の作品に関わる資料調査の結果，模様は単なる装飾として使う場合や意味も持って使われる場合があることがわかった。韓国の模様は，建物や衣装等でよく発見されるが，現代の韓国人にとって伝統衣装や建築物は縁のないものとして扱われている。だからこそ，現代の韓国人と伝統を近づけるような媒介物が必要である。その媒介物として私はアルファベットという他国の文字を使用した本を制作した。韓国の伝統を伝えるために他国の文字を使うことは，確かに矛盾であるかもしれない。しかし，英語は世界共通語として周知が得られているが魅力的に感じた。そのようにして，伝統に対する認識を高めていき，その価値を共有することが大切なのだと考える。その点で，本制作はアルファベットを利用しているので，誰にでも読めるのに加え，外国のことを学んでいても韓国の伝統のことを意識できる教育資料になるなど，活用の幅が広く，韓国人含め，より多くの人に韓国の伝統を知ってもらえる内容となっている。